



from MURONE
室根

開所を祝いテープカットを行う関係者

待望の施設、完成を祝う

グループホームが開所

孝養ハイツグループホーム開所式は3月2日、同施設敷地内で行われました。同所は、軽度から中度の認知症の人が利用する施設で、共同生活や地域との交流を通じて、認知症の進行を穏やかにすることを目的とした介護保険施設。木造平屋建て、延べ床面積393.34平方メートル。総事業費約6100万円で、定員は9人となっています。

開所に当たり、社会福祉法人室根孝養会の小山恭理事長は「室根山が一望できる環境の中に温かみのある施設ができた。高齢化が進む中、この施設の果たす役割は大きいと感じている」と式辞を述べ、今後の施設運営に意欲を示しました。



上 陸奥守を頼って胆沢で暮らす菅公夫人らのもとに道真公の無念の死が告げられる場面
左 菅秀才の文に驚く村人と恋人・竜田姫

語り継がれる伝説を舞台化

手づくり公演「梅の香の薫るとき」

千厩町民劇場どっから座(菅原和男代表)の創作演劇「梅の香の薫るときー菅秀才の物語ー」は3月3日、千厩体育館で上演されました。市民など約500人は、踊りや琴、太鼓などが盛り込まれたミュージカル仕立てのステージを堪能しました。

どっから座は、平成12年の旗揚げから地元の名所や歴史などを題材に年1回の公演を行ってきましたが、財源不足などのため2年間活動を休止。復活を望む声が多数寄せられ今回、市の地域おこし事業を活用しての3年ぶりの公演となりました。

ストーリーは、千厩町警清水の安楽寺にまつられていると伝わる菅原道真公の4男・菅秀才を題材にしたもの。道真が九州太宰府に左遷され、菅公夫人と共に菅秀才と姉妹が、陸奥守を頼って東北を訪れ、望郷の念を抱きつつも村人たちと交流を深めていくという物語。

開幕は、この劇のために作詞作曲された「梅の香の咲くころ」を千厩高音楽部が熱唱。警清水小児童が菅秀才に思いをはせる様子を熱演し、千厩高箏曲部の琴の調べで舞台は現代から約1100年前にタイムスリップ。小羊幼稚園児や濁田田植え踊りのメンバーなど、大勢の友情出演者が華を添え、観客の目を楽しませました。

菅原代表は「皆さんに喜んでいただけたことが一番うれしい。今後も地域らしさを手作り演劇で伝えていくことで、まちづくりに協力していきたい」と話していました。

声援ともちを背にヨチヨチ

道の駅・巖美溪で歩き初め会

第6回歩き初め会は3月3日、道の駅・巖美溪「ふれあい館」で行われました。子どもの健やかな成長を願い、1歳前後の子どもたちに風呂敷に包んだ一升もちを背負わせて往復約10kmを歩かせるこの会に、市内外から過去最多の86人が参加しました。

4人1組に分かれ、法被と鉢巻き姿もりりしくもちを背負った子どもたちは、太鼓の合図とともにスタート。表情も変えずに歩く子、座り込んで大泣きする子、もちの重さに耐えきれず後ろにひっくり返る子など、さまざまなレース模様で、会場は声援と笑顔に包まれていました。



from CHINOSEKI
一閃

ママの手を借りながら人生初の苦勞に挑戦した1歳児



from KAWASAKI
川崎

資料を見ながら解説を聞く参加者

いにしへの歴史に思いはせ

“河崎の柵擬定地”発掘調査講演会

砂鉄川堤防築堤を機に平成12年度から5年間にわたり行われた“河崎の柵擬定地”の緊急発掘調査結果をテーマに、銚子自治会(葛西信一会長)主催による講演会は2月24日、銚子研修センターで催されました。

財団法人文化振興事業団埋蔵文化財センター文化財専門員の羽柴直人さん、川又晋さんを講師に迎え、約40人の参加者は発掘結果に熱心に聞き入りました。

出土した「かわらけ」は11世紀ごろのもので、2本の堀が確認されたことから、この場所が、「陸奥話記」に記された「河崎の柵」(前九年合戦の際源氏の侵入を阻むため築かれたもの)にほぼ間違いないとされました。

意外な共通点持つ地域行事

大原文化講演会

大原史談会(芳賀光雄会長)と大東大原水かけ祭り保存会(千葉政吾会長)主催の文化講演会は3月5日、大原公民館で催されました。

宮城県登米市文化財保護委員の佐藤直喜さんを講師に、天下の奇祭「大東大原水かけ祭り」と国指定重要無形民俗文化財「米川の水かぶり」をテーマに行われた講演では、登米市東和町米川で行われている「米川の水かぶり」について、火伏せ行事であることや厄年衆主体の祭りであることなど、「大東大原水かけ祭り」との共通点や祭りの特徴などが紹介されました。聴講した会員らは、興味深い話に身を乗り出して聞き入っていました。



from DAITO
大東

興味深い講演に聞き入る会員ら



from HIGASHIYAMA
東山

笑顔がこぼれるあまーいイチゴ

小さなお口に大粒のイチゴ

保育園で思い出遠足

長坂・松川保育園、田河津児童館の年長組園児47人は3月1日、川崎町門崎の観光イチゴ園「もぐもぐの里」で最後の思い出遠足を楽しみました。

東山地域の保育施設では、ほかの園の子どもたちと友達になってほしいといろいろな行事を通じて交流。この遠足も、小学校入学を控えて思い出づくりにと企画されたものです。

園児はイチゴ園の職員からイチゴの花の話や受粉をするミツバチの話聞いた後、早速イチゴ狩りを体験。「甘くておいしいね」と真っ赤な大粒のイチゴを仲良くほお張っていました。

心に響く童謡にうっとり

おさなごとママのミニコンサート

就園前の乳幼児を対象とした“なかよし教室”の「おさなごとママのミニコンサート」は3月7日、花泉子育て支援センターで催され、親子18組40人が楽しいひとときを過ごしました。

一閃音楽研究会会長の小野寺玲子さんの美しいソプラノで歌われる「夕焼けこやけ」など懐かしい歌に、幼児は小さな手をたたき、乳児はお母さんの胸で心地よく聞き入っていました。日ごろ子育てに忙しい日々を過ごすお母さんたちは、童謡の素晴らしさを身近に感じ、しばしその世界に浸りました。



from HANAIZUMI
花泉

手拍子と一緒に歌う小野寺さんと親子連れ